



## 第1回宮崎県病院内メディカルラリー開催

メタデータ	言語: jpn 出版者: 宮崎県医師会 公開日: 2023-02-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小松, 弘幸 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10458/00010485">http://hdl.handle.net/10458/00010485</a>

## 第1回 宮崎県 病院内メディカルラリー開催

報告者 小松 弘幸  
所 属 宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会副議長  
(宮崎大学医学部 医療人育成支援センター 教授)  
と き 平成30年 3月17日(土)  
ところ 宮崎大学医学部

### はじめに

2018年 3月17日に、宮崎大学医学部で「第1回 宮崎県病院内メディカルラリー」を開催した。宮崎県内の基幹型臨床研修病院所属研修医と県内病院看護師を対象とし、日常診療で遭遇する5つの診療場面をシミュレーションで再現し、それぞれの場面での判断や初期対応を実践後、お互いに振り返り、学び合うことを目的とした企画であった。宮崎大学医学部医療人育成支援センターが主催となり、宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会および宮崎県地域医療支援機構のご協力の下、県内初めての企画として実施され、非常に充実した内容となった。以下、開催目的やシナリオ内容、参加者の様子、今後の展望についてご報告する。

### メディカルラリーの内容

#### 1. 開催目的

国内外で開催されている従来のメディカルラリーでは、主に救急領域の判断や技能についてコンテスト形式で競うことが多い。本県でもこれまで、救急に従事する医師・看護師を対象としたメディカルラリーは一部の病院で実施されていた。一方、宮崎県の研修医や若手医師を対象とした、臨床能力向上に直結するような教育企画を模索していた中で、このメディカルラリー形式を踏襲したまま、対象領域を臨床研修で遭遇する場面設定とし、対象者も県内研修医と若手の看護師を中心として、ともに学び合う機会

を作ろうというのが開催契機となった。このため、1)宮崎県全体で若手医師や看護師の育成を盛り上げていきたい、2)たくさんの挑戦者がシナリオや他の医療者の行動から多くのことを学んでほしい、3)病院間・職種間の交流を深め、日頃の医療にも活かしてほしい、を「3つの願い」として掲げ、「病院内メディカルラリー」として開催することとした。

メディカルラリーの性質上、各チームの判断力や技能をスコア化し、その優劣を可視化する競技性が発生する。臨床能力の評価と競技性は本来結びつけるべきではないが、「競い合って優劣を付けることが目的でなく、その中で学び合うことが今回の最重要点」ということを参加者に十分説明することとした上で、医療現場を離れて楽しく学ぶ要素も残すため、ラリーの成績上位者を表彰するという形式で実施することとした。

#### 2. 組織体制構築とシナリオの作成

本企画の運営は、宮崎大学医学部医療人育成支援センターを宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会と宮崎県地域医療支援機構が支援する形とし、宮崎県医師会、宮崎県、宮崎大学によるAll Miyazaki体制とした。医療人育成支援センター所属で医療シミュレーション教育統括部門長の長野健彦医師が企画・運営の実務責任者としてあるディレクターを担当した。5つの医療シミュレーション場面(以下、ステーション)のシナリオ作成とステーション設営は、基幹型

臨床研修病院所属の長嶺育弘医師(県立延岡病院・救急), 早川学医師(県立日南病院・内科), 岩谷健志医師(県立宮崎病院・救急/総合診療), 松浦良樹医師(古賀総合病院・内科), 眞川昌大医師(宮崎生協病院・内科)の5名の医師にご担当いただいた。この他, 23名の医師・看護師に各ステーションの運営スタッフとしてご協力いただき, 医療人育成センター教員6名がチューターとして参加者の誘導を担当した。

### 3. 参加者

医師については, 宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会を通じて, 県内基幹型臨床研修病院の研修医に参加を呼びかけた結果, 6病院より計19名(宮崎大学5名, 県立日南病院5名, 県立延岡病院2名, 宮崎生協病院4名, 古賀総合病院2名, 藤元総合病院1名)が参加した。看護師については, 上記病院に加え, 潤和会記念病院, 宮崎市郡医師会病院, 都城市郡医師会病院の9病院から計33名が参加した。

この52名を医師・看護師を均等割合として1チーム8～9名の6チームに編成した。6つのチームには当日メンバーで話し合ってもらい, チーム名を決めてもらった(チーム・シャイ, Team Gods, マンゴー, ジャイアンツ, チーム・一心, 竜太とゆかいな仲間たち)。

### 4. 開催スケジュール

午前9時に開会后, 最初に長野医師から急変対応・チーム医療のワンポイントレクチャーがあり, その後ice breakingを兼ねてチーム力を競う2つのミニゲームを行った(写真①)。10時～15時までは, 1ステーション35分(導入としての状況設定説明:7分, シナリオに基づくシミュレーション実施:15分, 実施後の解説と振り返り:13分)のシナリオを各チーム5種類体験した(写真②～④)。以下, 各ステーションのテーマと概要をお示しする。

【ステーションA】「院内で発生した外傷」: 院内で転倒した設定の模擬患者を発見し, 頸椎損傷



に配慮しながら病室に搬送し、その後の初期評価と治療を行う。

【ステーションB】「院内での報告とコンサルテーション」：消化管出血の患者を発見した看護師から研修医へ、患者を診察した研修医から専門医へ報告とコンサルテーションを行う。

【ステーションC】「院内での心肺蘇生とその振り返り」：院内発生的心肺停止患者にチームで心肺蘇生を行い、その処置の内容についてチーム内で振り返りのカンファレンスを行う。

【ステーションD】「病状説明と検査説明」：深刻な病状を持った患者と家族に対し、分かりやすい平易な言葉で、かつ患者家族の心情に共感と配慮を持って説明する。

【ステーションE】「アナフィラキシー」：病院内で突然発症したアナフィラキシーショックの評価と初期対応を行う。

全チームがステーションをローテートした後は、シナリオ作成者による各シナリオの解説(出題のねらい、重要なポイント、今後の診療へ役立つアドバイス)を行っていただいた。各ステーションで最もパフォーマンスが優れていたチームを表彰し、5ステーション総合評価で最も優れていたチームには表彰状と盾を授与し、参加者全員で称えた(写真⑤)。

## 5. 当日の様子

当日初顔合わせとなった医師と看護師のみなさんは、最初は緊張した面持ちであったが、各

ステーションでチーム医療を実践する中で、徐々に団結力と協調性が醸成され、最終的には「本物の医療チーム」となっていった。最後の集合写真では、参加者全員に充実感に満ちた笑顔が見られた(写真⑥)。

## おわりに

宮崎県で初開催となった研修医と看護師を対象とした病院内メディカルラーは、参加者もスタッフも、今回の開催目的と主旨を十分理解した上で真摯にシナリオに取り組み、結果としてお互いを尊重しながら学び合う素晴らしい教育イベントとなった。今回の経験を踏まえ、今後も新たな医師・看護師スタッフを巻き込み、より実践的かつ教育的なシナリオを用意して継続開催できれば、この企画が宮崎の若手医療者を惹きつける教育的文化として定着するのではないかと期待している。

